

物質・生命科学実験施設報告

MLF Status Report

新井正敏・日本原子力研究開発機構・J-PARC センター・物質生命科学ディビジョン

J-PARC は昨年 5 月下旬に発生したハドロン実験施設の事故以来、安全面に対する改革を進めてきた。幸いにして MLF はターゲット・ステーションや建屋の構造が多重安全防護の指針に従った構造、設備を有しており、ハードとして特段改修するものはなかった。しかしながら、安全管理システムについては、運転手引きやマニュアル類の改修、装置担当者の位置づけの確認、装置担当者の教育はもとより利用者の教育の徹底等進めた。また、新たな安全管理体制にしたがった訓練についても相当真剣な訓練が実施され、周辺地方自治体の原子力安全担当者、多数の報道機関の視察の元、よく達成できたと思う。一方、線源周りの改修工事、装置周りの改修、新設工事がほぼ予定通り実施できた。利用実験に関しては、2013A 期が途中で終了となったことから、当初大きな混乱があることが予想されたが、2013B 期の課題で競争率の高いものの、これまで以上の応募があり、ようやく利用施設として復帰できた感がある。2014A 期には更に多くの課題の応募もあり、加速器の安定稼働と高強度化も進むことから、2014 年度には大きな進展が大いに期待できる。

共通技術開発セクションの新設により、安全、試料環境、計算環境等、ディビジョン全体に係る共通業務がうまく回りつつある。MLF 職員は元より、CROSS スタッフ、委託スタッフの適材適所化による再配置により、より効率的な業務の実施が行えつつある。

研究成果については、震災に引き続き事故による施設の停止もあり、思うように創出できない状況ではあるが、高インパクトの雑誌での成果出版が幾つか認められるようになり、今後の安定した施設運用により、研究成果の創出が加速されると予想している。

2014 年には利用者数、課題数ともに 1000 の大台を超えることが大いに期待でき、世界的に見ても一流の拠点施設がようやく実現するものと期待している。